

# 若者のひろば

題字：倉林 順一

◇ニュース39号「はじめまして」のCase あすなろは個人的にも好きな場所であり、パステル画教室を開催させて頂いている所でもありますので、興味深く読ませていただきました。学生のブラックバイトが多くある中で、安心して学生が働ける場所という感じが良かったです。この様な職場ふえていくと良いと思います。

8月末にはあすなろで展示会を行いますのでよろしくお願ひします。

(高崎市 二口孝絵)



二口孝絵さんのパステル画作品  
「母の日に向けて」

◇ラジオからの情報です。

息子「おかあさん、うちはどうして夫婦喧嘩がないの？」  
母「私は弱いものいじめはしないの！」

息子は「こりやおもしろえ」と、学校の弁論大会で発表してみた。すると天受けで、なんと優勝してしまっただろうな。「いい学校だな。一度見学に行ってみよう」  
次回は老人ホームネタを一つご披露しようと思います。

(高崎市・金井秀行)

◇39号の「若者のひろば」に投稿した静香さんについて。2004年4月、入学式後のHRで窓側のいちばん前に座った静香さんもまっすぐに私を見ていました。同じ中学から来た知的障害のある女子を支えてくれました。それが看護師に向いていると思った主な理由です。

若者のひろば、文章じゃない。本当のひろば、小さなひろばができるといい。そしてそれから書く。若者たちが自分たちでつくればいいけど、きつとお手伝いも必要だ。お手伝いならやります。ではみなさんお元気で。

(伊勢崎市・船橋聖一)

◇毎回、楽しく勉強させてもらいながら拝読しています。今回は寄稿の機会を頂きありがとうございます。フォーラムニュースは多彩、多分野の方々からの情報や知見にめぐり会える。まさにフォーラムだと思っています。機関誌作成、発行のみなさまに感謝しています。

(渋川市・小林一郎)

◇表紙書作品「生きる」について書かせてもらいます。

新聞に掲載された相良倫子さんの詩を切り抜き、ずっと机の中に入れてたままでした。時々目にはいつか書いてみたいなと思っていました。作品展の案内を目にして、題材として申し分ない。書いてみると、改めて内容のすごさに驚きました。できるだけ作者の思い、沖縄の過去を表現できるようにという気持ちで書いてみると2時間があっという間に過ぎてしまいました。中学3年生が書いたとは思えない文章は、書いていると手を抜くことを許してくれませんか。しかも途中で休むことを許さない迫力がありました。だから書き始めると2時間は私の家仕事が終わる。だからと言って、決して苦しいのではない。むしろ作者の思いがうまく表現できたと思えるとうれしかった。つたない私の表現力で、みなさんに沖縄の思いが少しでも伝えられたでしょうか。

(吉岡町・長塩 二枝子)



二口孝絵さんのパステル画作品  
「空飛びイモムシ」